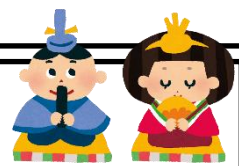


放射線科だより



令和5年 2月24日
診療放射線科 渡辺 隆司

《四肢：変形性膝関節症》

・変形性膝関節症(へんけいせいしつかんせつしょう)とは？

膝の関節をスムーズに動かすためのクッションの役割を果たしているのが関節軟骨です。変形性膝関節症は関節軟骨が年齢と共に老化し、すり減ってしまうことにより膝が変形し、痛みや腫れを生じる病気です。

○ 初期症状

関節軟骨がすり減り始めることで、関節の隙間が狭くなります。立ち上がりや歩きはじめといった動作の開始時に膝の痛みや違和感が出ますが、動きだしてしまえば痛みは治まるといった症状がみられます。

○ 中期症状

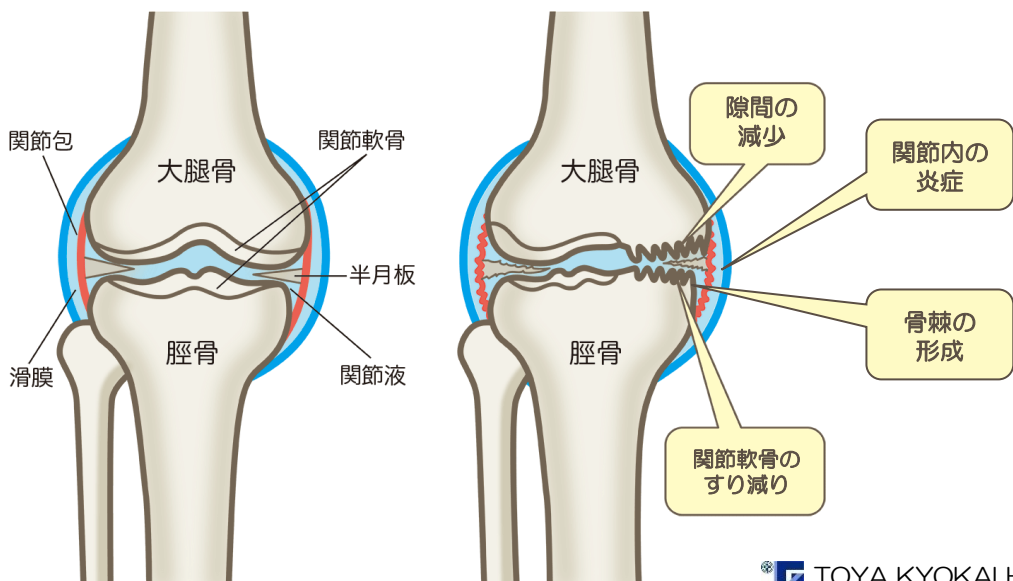
さらに軟骨はすり減り、軟骨の破片の刺激により関節内で炎症が起こります。骨棘と呼ばれる骨のトゲが関節の端にでき、膝関節の変形が始まります。痛みが治まらず正座や階段の上り下り、しゃがみ込みなどの膝を大きく曲げる動作が難しくなります。

○ 末期症状

軟骨がなくなり骨同士が直接こすれ合います。関節の変形が進み、膝は伸びなくなり、激しい痛みが出て歩行は困難になります。

健康な人の膝関節

変形性膝関節症の人の膝関節



診断は膝の変形や腫れ、圧痛の有無や関節の動きを調べます。レントゲンを撮影することで病気の進行具合を判定。また、必要に応じてMRI検査で関節の内部の状態を調べます。

一度、すり減ってしまった軟骨が元通りになることは難しく、早期発見・早期治療がとても大切です。

治療は症状が軽い場合は太ももの筋肉を鍛える、体重を減らす、膝に負担のかからない生活環境を整えるといった、病気の進行を遅らせる保存療法が中心になります。症状が進行した場合は痛み止めの注射や手術などを検討します。

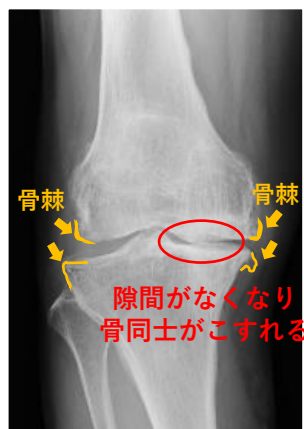
正常な膝関節画像



変形性膝関節症患者の画像



▲初期症状



▲末期症状



▲人工関節置換術

膝の関節痛は段階を経てどんどん悪化していきます。膝にこわばりや違和感、痛みがある場合は、変形性膝関節症の初期症状の可能性が高いです。思い当たる方は我慢せず、一度病院の診察を受けてみることをお勧めします。